

海外事業

アジアから世界を視野に、活動の舞台は大きく広がっています。



フィリピン/サンロケ

フィリピンでの「サンロケ多目的プロジェクト」を皮切りに、海外でも多方面にわたり積極的に事業を展開。国際社会が直面する重要課題を解決するために、技術協力による貢献も期待されています。



グローバルに展開する多彩なプロジェクト

関西電力は、1998年に日本の電力会社として初めて、海外での発電事業（フィリピンにおける水力発電事業）に参画しました。このプロジェクトは、建設から25年間発電所を運転したあとに、設備をフィリピン国に譲渡するBOT（Build, Operate and Transfer）方式による海外発電事業で「サンロケ多目的プロジェクト」と呼ばれています。これを契機に、「東欧省エネルギー・排出抑制基金」への参画、不要となったガスタービンをも米国で有効活用する「ナニワプロジェクト」、LNG輸送やLNG受入基地運営の経験を活かした「台湾北部LNG基地プロジェクト」への参画など、多方面にわたって積極的に海外での事業展開を図っています。

地球規模での重要課題に対する積極的な取り組み

「地球温暖化問題」や「持続可能な発展」など、国際社会が直面している重大な課題に取り組むためには、世界規模の協力が必要不可欠です。原子力発電・省エネルギー・環境保全などに関連する技術移転において、民間セクターの中でも電力が果たせる役割は大きく、関西電力に対しても、さらなる貢献への期待が高まっています。関西電力では、持てる技術ノウハウを活用して、温室効果ガスの排出削減に向けた発展途上国との共同活動をはじめ、持続可能なエネルギー開発の促進を目指す国際組織への参加、途上国における電力と環境に関連する人材開発など、気候変動の緩和に貢献するプロジェクトに積極的に参画しています。

